

勝浦市市民会議

第2回会議記録

日 時 平成25年2月20日（水）14時～16時
場 所 勝浦市役所 4階大会議室
出席者 委員18名（欠席者なし）
教育長
関係職員4名（福祉課、教育課）
事務局2名（企画課）
進 行 事務局
配付資料 別 添

会議の概要

討議に先立ち、事務局から前回での意見等について報告がありました。最後に、次回の市民会議開催日については、3月最終週の中で後日調整することとなりました。

主な意見等

○座長

1回目の会議の時には、皆さんからいろいろと意見が出されました。そういう意見の中で、保育所の問題、幼稚園の問題等が含まれておりましたけれども、第2回で話し合いたいことは、再確認として、まず保育所の再編問題についてということです。

保育所の再編について、皆さんからこの間も出されておりました。子どもの数が少なくなってくるから最終的に1つになって、マンモス的な保育所のようなものではちょっと困るのではないかというようなことですね。

子どもへの目の届き等を含めて職員の配置等についても、1カ所になるということはマイナスはあってもプラスはないのではないかというようなことが出て参りました。

そういう点で、いくつか皆さんからご意見を賜りましたけれども、今日は最初に勝浦市の保育所を再編するのに、この間はだいたい3カ所くらいでどうだろうというような話を前提にしながら話を進めてきたんですけれども、皆さん方の忌憚のない意見をまた伺いたい。市民会議としては、保育所はだいたい何カ所くらいに再編することが望ましいのではなかろうかというような大まかな方向をまず打ち出していききたいものだなと思います。

ですから、皆さんから忌憚のない意見をどんどん出してください。また、1カ月ちょっとありましたから、皆さんの周囲の人達と話し合いをしながら、こんなことを言われたよ、こんなことを聞かされたよ、というようなこともあるかもしれませんが、そう

というようなことも併せてどんどん出していただければありがたいと思います。

発言する時は挙手をしてから発言するという形でよろしくをお願いします。

○委員

保育所の数としては、各地域にあった方が本当は良いと思います。でも人数の減少とか、大津波を懸念して大丈夫な所というふうに考えると、3つになってしまうのかなど。できることなら3つをまた1つにしてしまうとかではなく、3カ所なら3カ所という形が望ましいと思います。

○座長

前回も、3カ所にするという一番大きい原因は津波対策で、海岸に今ある保育所はもし津波が来た時に大変だということが第一にありました。

津波の予報等についてもいろいろな意見が出ておりますけれども、例えば、新しい活断層が原因で地震が起きた時には、この房総地域に寄せる津波の波高は、だいたい10m40cmだとか、そういうような数字が出されたりしました。

勝浦で10mの津波がもし来たら、海岸は駄目じゃないかというようなことも現実の問題として皆さん考えるようになりました。そういう点で、海岸地域の保育所を、津波対策ということで山の手の手に持って行くことが妥当かなということによって皆さん了解したのではなかろうかと思います。

皆さん、今の発言についてどうですか。

○委員

今度、上野は鵜原と興津が一緒になるということで、いろいろやっているんですけども、運動会とかクリスマス会とかは、上野小学校を借りてやるしかない。駐車場も今度はどうしようかとなってきますので、合同してやっていくのであれば、そういうことも踏まえて考えてもらえればと思います。

上野、中央も、幼稚園も保育所も、一緒にするのは構わないんですけども、合体したらしたなりに駐車場をどうするのかとか、あと仕事の関係で、合体すれば興津の方々とか鵜原の方は、仕事に行くのに、今度は上まで上がって子どもさんを預けてから下りなくてはならなくなるわけですから、交通安全対策面のほか預ける時間を延ばすとか、早く預けてもらえるととか、バスが出るということですからバスの時間を融通させてもらうとか、合併するのであればされた人達に対するケアを考えていただきたいと思います。

○座長

子どもの送迎関係などについてはこの前の会議の時にも出ました。これは事後の問題なんですけれども、どこに送迎バスを止めるのかとか、そのような具体的なことまでもはっきりさせていかなければならないかなということ、皆さん考えているだろうと思います。私もその点については、十分なケアが必要だということには全く賛成です。

今の話で、再編問題については反対ではありませんが、事後の問題について十分考えてくださいということですね。

その他、どうでしょう。

○委員

4月からの高台での保育については、保護者の皆さんもスクールバス等を使って送迎または自分で送り迎えをする形で了解はしていると思います。

その他にお話が出ている、給食センターを移設し、中央保育所を建て替えるにあたり、保育所だけにするのか、子ども園にしていくのかというような問題が今後の課題だと思うんです。

○座長

今、保育所の再編については皆さんが了解済みなんだというような意見が出ました。

○委員

津波の関係では勝浦も10mだとかいう想定が出ていますから、千葉県の東方沖、東南海、南海の地震を想定すると、やはり将来を担う子ども達のことをまず考えていかなければいけないと思うんです。

○座長

再編問題については、一応勝浦市内3保育所という形で皆さんの意見はほとんど同じだということによろしいですか。

保育所の再編問題については、一応現在のところでは、上野・総野・中央と、3カ所の保育所スタイルでいきたいと思いますという形ですね。

それでは、次に移りますけれども、今話が出てきました、中央保育所の形態ですかね、その辺のを中心にしてしながら話をしましょうか。

今、委員からは認定子ども園のことも考えた形で中央保育所を新しく造っていくことがいいのではなかろうかという意見だと思いますけれども。皆さんのご意見をお伺いいたします。

○委員

興津の保護者の役員会でその話が出たんですけれども、子どもの人数のことももちろんあるんですけれども、現状の幼稚園の建物を使うのであれば、耐震性が問題になっていると前回お話を聞いて、教育委員会としては耐震問題に関して今すぐどうこうするという予定ではないし、はっきり答えが出ていないという話でした。

予算的に、子ども園という形ではあるけれども、耐震面で安全な建物の中に子ども達が教育を受ける場所を持てるのであれば、なおかつ教育の質も変わらないのであれば、統合という形になって混乱はちょっとするかも知れないけれども、安全とか質の変化がないということを考えれば、子ども園になっても大丈夫なのではないかという意見が出ました。

○座長

今、認定子ども園の問題について具体的に意見が出て参りましたけれども、他の皆さんのご意見もお聞きしたいと思います。

○委員

前回、山武市のうまくいっている例を聞きましたけれども、逆にしっくりくるまで3年くらいかかったという話でしたよね。問題点は何だったのか、うまくいったのでしょうかけれども、多少衝突があったのは何が問題だったのかが分かれば、また考えがあるの

ではないかと思うんですけれども。

○委員

3年落ち着くまではというのは、子どもは何てことないんです。一緒に遊び始めれば子どもは柔軟性もあるし、すぐにお友達もできてその生活に馴染むことができました。

実際、幼稚園も保育所も普段午前中教育をしている部分というのは変わらないですし、違ってはならないはずです。志は皆さん同じで、子どもの幸せを一番考えなければいけませんので、子ども達同士がすぐに仲良くなって生活を楽しんだり活動をしていくようにはなったということなんです。

しかし、保育所型の認定子ども園であったので、ただ短く預けるか長く預けるかの違いだけなのですが、幼稚園サイドの保護者の皆さんが、そのシステムに馴染むのに少し時間がかかったのかなというふうに聞いています。

後は行政関係で、これは職員の問題なんですけれども、学校共済から市町村共済へ移行していくとか。あと採用、辞令を出すのに、併用、教育委員会側から幼稚園教員としてそして市として保育士として任命するのに併用辞令とって両方から出す。行く行くは1つになっていくんだけど、それがまとまっていくのに3年かかる。これくらいは仕方がないことではないかというふうにおっしゃっていました。

誤解されてしまうと困るんですけれども、子ども達が3年かかったのではなくて事務サイド、行政側とか、あとは保護者の皆さんの生活、普段顔を合わせたり。今は本当に仲良くやっていますということでした。

○委員

3年くらいで解決できるようなことであったということですね。

○委員

子ども達にとっては、1カ所に居て書類だけで済む。子どもの安全確保、教育も受けられるし1日楽しく過ごせる。保護者の皆さんにとってもそれはメリットです。

○座長

子どもの方については全然問題ないということですね。運営上の問題また書類上の処理の問題、そういう行政関係の面で多少の時間がかかったということですね。

その他に皆さん、どうです。認定子ども園、分かりましたか。

○委員

幼稚園と保育所の教育理念、目標などは変わらない、一緒だと伺ったんですけれども、自分も保育所であったし、子どもも、働いていると保育所というのが頭に入っているので、幼稚園が分からないんです。どうして幼稚園に行かせるのかとか、保育所に行かせなくてはいけないのかとか、その差がちょっと分からなくて。

○委員

私の子どもは2人とも幼稚園にお世話になりました。

どこが違うかというのと、参観に行かせていただいたんですが、その当時ですが保育所の方が教材がたくさんあるんです。予算的に恵まれていると思いました。

幼稚園はどうしても保護者から教材費を徴収するので、自己負担になるわけです。保

育所側は、今はほとんどないですね。クレヨンや粘土など、全て教材は市の予算で賄う。事務関係、行政関係において認定子ども園に時間がかかったのは、そういう予算上とかシステムの手続きにもあったのではと思いますけれども。

○委員

若いころですが幼稚園の教員をしていました。私の場合は、勝浦幼稚園、勝浦市役所の保育所の係もやっていましたし、今中央保育所ですけれども、回っているわけです。

幼稚園と保育所の決定的な違いというのは、お母さんが働いているかどうか、また介護、産休とかもあります、家庭に手のない方をお預かりするというのが原則なんです。そういうことがなく、どなたでも大丈夫というのが幼稚園なんです。

また、保育所は所得に応じて保育料が決めますが、幼稚園は一律ということです。一律の保育料プラス給食費、教材費その他諸々がかかるということで、実際に比較した場合はどちらが上とも言えないですね。所得に応じてということです。

あとは、役所が幼稚園は文部科学省、保育所は厚生労働省が管轄となっています。それから免許ですが、幼稚園は幼稚園教諭の免許、保育所は保育士資格ということです。今はだいたい、若い人達は2つ持って受けてきます。

父兄にも教え子がたくさんいまして、幼稚園を出られた方もたくさんいます。保育所を出られた方もたくさんいますので、わけ隔てなく、皆さん仲良くしてらっしゃいます。

○委員

保育所サイドではあまり戸惑いはないです。

○座長

法令的な面でも、保育所、幼稚園で大きい違いがないんですよ。狙いだとか、内容的なものについて全く同じ表現です。片方は文部科学省、片方は厚生労働省なんですけれども、文章は全く同じです。中身は幼稚園も保育所も同じと言っても間違いではないですね。

○委員

勝浦の子ども園での保護者負担はどのようになるんですか。

○委員

今は内閣府が仕切っているわけではないので、教育関係は文部科学省、保育関係は厚生労働省がやっているの、料金の取り方が違うと思うんです。多分山武市も料金を別々に取っていると思います。これから先は、内閣府が一本になった時にどういうふうな経過になるかということにはちょっとわからないんですけれども。

それと今、保育士資格、幼稚園教諭資格についてもこれから協議されていくと思うんですけれども、もしかしたら保育教諭みたいな形に一本化される可能性もあります。ですから、幼稚園教諭の免許のない方は何年以内にとるといような、また逆の場合もあるんですけれども、そういうことが今検討されているようです。

これは一元化と昔言われたんです。幼稚園と保育所の一元化というのは、私達が学生時代、すごく古くからあったんです。私達も学校で幼保の一元化ということを知りました。教授もそれを結構薦めていたんですけれども、どうしてそれがうまくいかなかった

のかという、役所が違うためになかなか一緒にはならなかったんです。一時期神戸かどこかで一緒にやると言ったら、役所が違うので、手のない子どもさんを預かるのと単に教育するのとでは違うみたいな感じで、そこでうまくいかなかったとも聞いています。ですから、昔からこれは課題とされてきたことなんです。

勝浦に就職して驚いたことは、ほとんど保育所だったんですね。保育所がたくさん出来ていたんです。なぜかという、その頃保育所は、国の補助金が多分10分の8くらい来ていたのではないかと思うんです。ですから幼稚園よりも保育所の方が出来た、という状況だったと思うんです。だから勝浦市には保育所がたくさんあるんです。

でも保育所に勤めていて逆に分かったんですけれども、結局幼稚園が少ないために、預けるために何らか働かないと保育所に預かってもらえないので、そのためにパートをしたりして保育所に預けていた人もいます。そういう状況も起こってきたので、私としてみれば、入ったときから一緒にならないかなと思っていたんですね。そうすれば別に働かなくても同じ園にいることもできる。

そういう方たちは、例えば保育時間が2時までで済むところを4時まで預けるじゃないですか。子どもにとって、必要ないのにずっと長く預かるということが果たして良いことかどうか、という問題にもなります。

だから、一元化して子どもに合った保育時間が得られれば一番いいのになと長年思っていました。

○座長

私も前に、親が家に居て子どもの面倒を見られるというのは、保育所に子どもを預けられないんだよと、じゃあ幼稚園しかないのかという話も具体的に聞いたことがあります。

川崎の知人の話ですが、幼稚園だから保育所だから、また認定子ども園だからということで、何か差があるようなギクシャクしているようなことはあまりないね、ということでした。要は子どもの扱い、子どもに対してどう考えるか、の相違ではないのかとのことでした。

今、子育ての問題については、どこの地域でもいろいろ苦労しているのだらうと思いますが、この辺は保育所に待ちがあるとは聞いたことがありませんから、そういう点では恵まれているところかなと思います。

その他ご意見ございませんか。

○委員

子ども園にしたとして、幼稚園に所属しているけれども預けなければいけないという場面が出てきた時に、その人数の上限とかがあると思うんです。

保育所の子ども達プラス幼稚園の子ども達を預けなければならない時に、極端なことはないかも知れないけれども、1日何人くらいなら大丈夫なのか、何人でも大丈夫なのか、その辺で保育所の先生達にも困ることが起こる可能性もあるではないか。その辺りを山武市はどうしていたのか、勝浦市も考えているのかとか、そういう点も心配しておかないと賛同はできないと思います。

○福祉課

認定子ども園と言いますのは、今の幼稚園部分の基準と保育所の方の基準を満たしたものの、これを幼保連携型認定子ども園という形になってきます。

これにつきましては、保育士の数、短時部、長時部と言わせてもらいますけれども、幼稚園部分につきましては、午前中は教育、その後幼稚園部分については帰る、後は保育所の方で保育をします。幼稚園部の方に何かあった場合には、預かり保育というような形、そこで料金が発生します。それについて今度は保育ということになってきますので、人数に応じまして保育士の数が必要になってくると言う通りなんですけれども、枠の中で、長時部、短時部含めて保育士の数をそろえるというような考えをしていますので、延長になったとしましても、それは保育の基準には合致するというような形で進めていく必要があると考えています。それを少なくするというところになると、午前中の保育士数、教員数が足りなくなってしまうので、それはまずいということです。それは心配なさらなくても結構です。

○委員

イメージとしては、時間外に預ける時に保育所に行くのであれば、見るのは保育所の先生なのかなと思うんです。幼稚園の先生は定時で終わるので、その先生たちが時間外として見るのか、保育所の先生たちがプラスで見なくてはいけないのか、イメージ的にどっちなんだろうなと思ひまして。

○福祉課

イメージとしては、大きな丸があるとして、それを午前午後で割ってもらいます。そうすると、大きな丸の中で先生方が配置されていますので、先生は変わるわけではないです。幼稚園部分と保育所の者が午前中は一緒にやっています。昼からは保育の必要な人はそこに残り、幼稚園部分は帰るというだけですから、先生は変わりません。ですからそんなに問題はないかなと思います。

あっちへ行くこっちへ行くではなくて、一緒のクラスの中で、今日は長く預かり保育をしますよということになってきますと、山武市だと1時間あたり150円であったと思いますけれども、幼稚園の授業料のほかに加算されるという形になります。

○委員

では、子ども自体は移動するのではなくて、その園舎内で一緒の空間の中で。

○福祉課

同じクラスの中でやっていますから、それは問題ないと。動くとかそういうことではないです。

○委員

例えば1人、20人くらいいるクラスの中で1人だけ今日は長時間ですよという時には、建物が変わらないということは、1人だけ1対1で先生とずっとその時間を過ごすということですか。

○委員

前回もらった資料の認定子ども園というところで、幼保連携型認定子ども園とか、幼

幼稚園型とか保育所型とかありましたよね。幼稚園時間の子と保育所時間の子が一緒のクラスで何組ですという扱いなのか、それとも幼稚園スタイルの方だけで何組ですとかやるのかということ、認定子ども園にしようという話になってから、どういう認定子ども園にしていくのかというものであって、今それは決定しなくてもいいのではないかと、思うんですけれど。

○座長

それはそうです。

○委員

ただ、幼稚園のクラスという感じで言われていたんですけれど、「違う、一緒のクラスだよ」という説明だったと思うんです。

○座長

認定子ども園というのが近くにないため、具体的な形はどうなんだと、どんな形で運営されているんだと、中身はどうなんだということがあまりピンとこないもので、いろいろな意見が出てきたと思うんです。ですから、今言われたように、具体的な問題については認定子ども園が出来た後で考えるべきことですよ。

○委員

方向性としては私は認定子ども園は賛成です。ただ、先生の数であったりクラス分けであったりとか、その内容は、議論していかないといけないと思います。

○委員

保育所の時間帯での1日なので、幼稚園側の方の意見を聞かせてもらった方がいいのでは。

○座長

幼稚園の問題については、また皆さんで話し合いをしてもらおうかなと思っています。

○委員

新しく中央保育所を建替えるに当たって、先程お話が出たように、中央保育所は今160人ちょっといまして、駐車場の問題が非常に悩ましいところです。

中央保育所自体に保護者が止めるときには、うまく止めて20台くらいしか止められないんです。何か行事のある時は、給食センターを借りたり、勝浦中学校の校舎の裏側の希望ヶ丘という所を借りたりしてやっているんですけれど、運動会だクリスマス会だとなると134台の台数では利かないくらいの台数になってきます。おじいちゃんおばあちゃんも車で来ますとかになるとパンクしてしまうので、建替える時には駐車場をゆったり取っていただけるような方向性にしてもらいたいと思います。

送迎バスを運行しますということで中央と上野に関しては書いてあるんですけれど、帰る時間がもう限られてしまうということですよ。それ以外の人は迎えに来てくださいという理解で良いのかなと。止まる場所もこれから多分指定されていくとは思うんですけれど、停留場所が本当に細かくなると、停留場所まで車で行かないといけないという話になったり、雨の日とか大変だと思うので、細かく決めていかないといけないのではないかと思います。

○座長

それは具体的な形で、ある程度細かく決めていく必要があると思います。

○委員

保育所の再編のところで、土曜日を通常と同じ時間の保育にしてもらえないかと。平日も、今中央は6時くらいまで見てくれるんですけども、先生方の負担もあります、6時半、7時というのを望みます。また、仕事の内容によっては、月曜日が休みで、土日祝日に出ているという人もいるでしょうから、土日祝日も保育所の再編というところで考えていただいて、受け入れられる体制があると非常にありがたいです。

○座長

それは、決まった後、具体的な形でそういうものを決めていこうということですね。それと、今出てきた中で、駐車場の関係と土曜日曜という休日の時の子どもの扱いについて、何か新しいことを考えていただきたいということですね。これは内容的な問題だけではなくて雇用の問題その他いろいろと絡み合ってくるところが多いですから、そういう具体的な問題については、保育所の再編問題についてこうなりましたよと、勝浦中央保育所は一応認定子ども園的な形でもって開設しますよと、そういうことがはっきりした時に、そういう具体的なことも併せて内容はこうですよということが皆さんにはっきりと提示ができるような、そういうことをやっておく必要があるだろうということですよ。

○委員

提示する前に、今の時間のことなどは聞いてほしいという意見が多分あると思うんです。

○座長

皆さんからそういう希望があるかないかを採ろうということですか。

○委員

もし認定子ども園というのを立ち上げるとして、教育とか保育の内容に関しては何もないですけど、バスの止まる場所だったりとか、平日の時間を7時まで延ばしてほしいとか、土日もやってほしいとか、意見が出るとしますので、行政側だけで決めるのではなく、保護者の意見も聞いてもらいたいということです。

○座長

分かりました。

その他、今の認定子ども園の問題について、何かございますか。

今までの話の中で、保育所の再編問題については、皆さん異議はないということが1つですね。それと、中央保育所の方に新築しますけれども、一応認定子ども園ということを前提にして考えていきたいと思います。その認定子ども園の内容について、具体的な形でこれから話をぜひ持ってもらいたいということですね。

そういうところで1時間経過してしまいましたので、休憩を取ります。再開後は、認定子ども園の問題で残っているものがあれば、皆さんからご意見を聞きたいと思うし、最後、幼稚園の存続問題について、皆さんからのご意見を伺いたいと思います。

～休憩～

○座長

認定子ども園について、他に改めてご意見ございますか。

○委員

前回提出された資料などで分かりますように、今後幼稚園児童数が減少の一途をたどるであろう予測がありますが、それであれば、幼稚園にこだわらずに大規模な保育所の新設という形はとれないのかと、保護者一同考えているんですけど。

幼稚園の施設の老朽化を市はだいぶ懸念されているんですけど、私共が見た限りでは、建物に関しては、遊戯室が47年、教室連が40年経過というのが資料で良く分かるんですけど、現状を先生にも聞いたり自分らで確認したりしたんですけど、運営の方に支障はなく、安全面等の観点から見ても危険箇所は特に見受けられません。

強いて言えば、園庭遊具の劣化がだいぶ進んでいるかなという程度で、自分たちとしては、木造で雰囲気もありまして、何人もの先生方も卒園されておられる、その方たちの思い出もある園舎と園庭をぜひ残していただきたいことを望んでいます。

ぜひ皆さんで一度視察にお越しいただければ良く分かると思うんですけど。聞いたところによりますと、まだ市の方ではそれほど中まで入って来られたことがないみたいなんです。ぜひ一度しっかり内容を見てもらって、その上で、老朽老朽と言わずに判断をお願いしたいんですけど。よろしくをお願いします。

○座長

教育委員会の方で把握しておいてください。それから、ある意味で認定子ども園的なものについて、今度新しく造る場合には、大きい規模でという賛成的な形で発言がありました。

○委員

保育所の大きな新設という形で、です。

○座長

中央保育所の話ですよ。

○委員

幼稚園を含めないでの保育所の新設はできないものか、ということなんです。中央保育所の改築のことで、認定子ども園ではないということです。

○座長

では、今言われたのは、認定子ども園は私は反対なんだ、ということですね。

そういう意見も出て参りましたけれども、皆さん方の大方の意見では認定子ども園、いいじゃないかということで発言してくれていました。したがって、25年度は設計、26年度建設、27年度が開設という形で中央保育所の方の新築が始まるわけですけども、中央保育所ということよりも認定子ども園という形で設計を進めてもらいたいというような皆さんのご意見ということでよろしいですか。

○委員

幼稚園側はそれは反対ということです。

○座長

幼稚園側は、反対ということですが、今までの皆さん方の発言では、認定子ども園い
いだろうということで話が進められていたわけです。では、そんな形で一応方向付けを
してよろしいですね。

最後、勝浦幼稚園の存続問題について、話を進めていこうと思いますし、皆さん方
のご意見を聞かせていただきたいと思います。皆さん方が忌憚のないご意見をぜひ出して
いただけたら大変ありがたいと思います。

それでは、幼稚園側の方から幼稚園の存続問題について話をしていただけたらありが
たいと思います。

○委員

お手元に先程配らせていただいたんですが、幼稚園での生活というプリントを何枚か
用意させていただきました。まず勝浦幼稚園というところがどういうところかというこ
とを皆さんご存知ない方がほとんどだと思いますので、勝浦幼稚園では今こういった活
動をやっていますというところを知っていただくために今回資料を用意させていただきました
のでぜひ見ていただければと思います。

幼稚園の保護者として考えることを発言させていただきたいと思います。

集団生活というものは、そこに通う全ての子ども達が同じような生活サイクルを共有
して初めて成り立つものだと思います。そこで初めて先生方は保育計画を立てること
ができるようになり、子ども達の中に仲間意識が形成され、人間関係が構築されてい
くのだと思います。それは、読み書きそろばんに行き着く、もっと基本的な教育で
あることを幼稚園生活や勝浦の武道大学のいろいろな先生方のご指導によって、保護者
一同実感しております。

我々保護者が望む集団生活が、子ども園になるとかなり難しいと考えられます。具体
的な勝浦市に即した保育計画に向けてではなく、制度の導入だけ言っているのは本当の
子どものためになるのか、というところが疑問に思います。子どものためであると感じ
る編成であれば、幼稚園一同意見を申すこともなかっただろうと思います。

5歳までは子育てが一番楽しくもあり難しくもあります。それをどれだけ親と共有し
てくれるのか、どれだけ一緒に考えてくれるのかが、子育て支援の一番大事な点として
求めています。

建物や制度に捉われてなくても、それは十分できることです。一番子どもが子どもで
ある時期を過ごさなければならない、この時期の教育をもっと真剣に考えていただきた
いと思います。

これが幼稚園の保護者からの意見です。

先程、幼稚園と保育所の違いは何か、というご意見があったんですが、これは表現す
ることがすごく難しいことだと思うんです。先生方のおっしゃる、教育というところが
変わらないという部分は、もう先生方のお言葉ですのでそれはそれだと思うのですが、
今の段階で私が考えている部分というのは、子どもを見たときに子どもらしく、幼稚園
の方は子どもらしく見ていただいているのかなというところ、先生と保護者の距離が近

いというのもありますし、子どもと先生との距離が近いというのものすごく感じています。

子ども園にした時にできる子育て支援センターというの、今現在子ども館というものがあれば、特に認定子ども園に付ける必要性はないと思います。認定子ども園ができると、そこに子育て支援センターというのが付いてくると思うんですけども、そうすると子ども館はどうなってしまうのかなというところも疑問にあります。

保育所の先生方に質問させていただきたいんですけども、先程、幼稚園と保育所の違いというところで保育所と幼稚園というのは変わりはないとのご説明があったんですが、今現在保育所の方の需要が勝浦市内では多いのではないかとということでしたよね。

幼稚園に通っているお母さん方でも、だいたい7割から8割の方達は、何らかの仕事、自営であったりフルタイムで働いている方もいらっしゃいますし、幼稚園に子どもを預けている間の短い時間を有効利用して仕事をしている方もいらっしゃいますので、皆が皆、仕事をしていないから幼稚園に預けているというわけではないんです。

今の勝浦市の現状からいくと、確かに保育所の需要が多いと思うんです。だから中央保育所なんかは160人という人数が行っているかと思うんですけども、その保育所の需要が多いというふうに感じているならば、あえて子ども園という形を取らなくとも保育所を大きく建替え、幼稚園の必要性をどのように感じられるのかなと思ったんです。くつついても保育所の需要が明らかに大きいわけではないですか。子ども園になった時、幼稚園の短時間というのができるという話が先程あったんですけども、時間で結局区切っていくわけですよ。需要がそんなにならなくていいのなら、そんなに子ども園というところにこだわらなくてもよろしいのではないかとと思うんです。何で保育所だけにして、幼稚園はもう人数が少ないんだから、やめちゃえばいいのにとか、そういう考えの方向とか意見というのはないのかなと思ったんですが、どうなのでしょう。

○委員

子ども園になった場合、家庭に合わせた時間を預かれるのではないかと思います。これから先の政策にもよるんですけども、例えばパートタイムで働いている人は、週3日だったら3日に応じて預かれるとか、そういうこともできるのではないかと。そういうこともあるし、また仕事を辞めた時に、幼稚園に移らなくても子ども園でしたらそのままその施設にいられるということです。

○委員

あくまで仕事の面でお話をされるんですけど、幼稚園そのものの需要をどのように考えるのかなと思って。

○委員

子ども園だったら、幼稚園に属していて必要に応じて夏休みも何回か預けられるとか、そういうこともできるのかなと思うんですけども。

○委員

先程、幼稚園にも働いている保護者の方もいて、子どもさんを幼稚園に預けている間の数時間をということでしたが、一番困ったのは夏休みで、その間どうしようかなとあ

ちこち子どもを預けたんですけれども、やはりその人はその時間仕事を辞めて夏休みは子どもを見るというふうに。

○委員

今現在、フルタイムで働ける方とかは、おじいちゃんおばあちゃんとかと一緒に、近くにいる方もいらっしゃるの、そういう方に見ていただいたりとか、あとはお友達同士で遊んだりとか、そういう時間の使い方をされているのだと思います。夏休みの過ごし方というのはそれぞれあると思いますので、私がはっきりこうしているという断定はできないんですけれども。

もともと認定子ども園というのは、待機児童の緩和のために造っていきましょう、という話ですよ。でも、勝浦市には待機児童もいないわけで。いろいろな地域で子ども園があったらそれはいいのかもしれないけれど、子ども園というのは今ある保育所と幼稚園を合体させていかななくてはいけないというルールはないんですよ。これは私の意見ですけど、子ども園は造って、幼稚園は幼稚園でそのまま残しておいても、そういう案もありますよね。わざわざ必ずくっつけなくてはそれができないということではないと思うので、そこを勘違いされている方もいらっしゃるのかなと思ったのですが。

○委員

確かに待機児童の関係もかなりあります。でも、国としては、同じ子どもなのに、こちらは幼稚園、こちらは保育所というのはおかしいのではないかとということもあって、待機児童対策だけではないと思います。

質問なんですけれども、何年か後には20数人に幼稚園はなるだろうという予測がありました。幼稚園、保育所、集団生活が必要だから子どもさん達を上げるわけじゃないですか。そうなった時に、1クラス1桁単位の子どものさん達は集団までにはならないわけで、それでも大丈夫ですか。集団生活を経験させるために入れるじゃないですか。

○委員

集団の定義というのは。

○委員

私達は普通に考えて、例えば1クラスでドッジボールができるとか。そのくらいの人数は必要だと考えます。

○委員

先程の市の話ですと、午前中は幼稚園のことをやると考えていいんですよ。午後が保育所なんですから、幼稚園の教育とかそういったものがなくなるということではないですよ、むしろ保育所の子ども達が幼稚園の教育を受けられるというメリットがあるということです。保育所の方が逆にお世話になってしまう形なのではないかと私は思うんです。幼稚園の人達は今まで通りのことを保育所の子ども達と一緒にやって、その後は保育所ということですよ。先程のお話から、極端な話ですと場所が変わってしまうだけということですかね。私は深く考えないで、先程の話を聞いて、ニュアンスですけども。幼稚園がなくなるとか、保育所がなくなるとかいうことでは、一緒になるわけですから両方なくなると私は思っているんです。

建物のお話を言われると、それは確かにいろいろな思いもあるから、それはそうだなとは思いますが。幼稚園の教育の制度や理念がなくなるわけではなくて、そのまま保育所の子ども達と一緒にできる、ということですよね。保育所の人にしてみれば、先生達に教えてもらえるわけですから、ありがたいですし、そういう意味では幼稚園の子ども達にお世話になる感じになるのではないかなと思います。

先程の市のお話の中のことでありますから、実際どうなるか分かりませんが、幼稚園のカリキュラムがなくなるということではないんじゃないかなとは思いますが。

○委員

もし保育所型の認定子ども園にした場合に、幼稚園が存続していた場合、こちらの認定子ども園では保育所と幼稚園機能をもつ建物が出来、勝浦に2つの幼稚園が出来る、ということになりますよね。

○委員

そうですね。でもそういう選択肢が保護者にあってもいいのかなとは思いますが。

○委員

その選択肢はいいと思います。ただ、幼稚園に入れようという人は、だいたい新しい建物の方に入れてしまうんじゃないですか。というのが感覚的にあるんですけれど。

○委員

それも選択肢の一つだと思います。今、勝浦は生活していて選択肢がない状況というか、要は保育所か幼稚園かということです。市役所の窓口でそういう質問をした時に、仕事をしていたら保育所へ、してなかったら幼稚園へとされたということを聞いたときに、結局、市側の方も幼稚園がやっている教育、どういう教育をやっているかという細かな説明もできない。仕事をしているとかしていないとか、そういう括りで話をしてしまうところが、ちょっと違うのかなと思うんです。預ける側としては、園の中でどういうことをやっているんだろうと、それに合った中で選択するというのもあるかなと思うんです。

子ども園というのが出来て、その中でそちらの教育方針みたいなのがありますよね、勝浦幼稚園の中で教育方針がある、そういった時に2つを比べて、私の思っていることはこっちでやっているからこっちへ行こうとか、そういう選択肢が出来てもありなのかなと思うんです。どうしても子ども園、という形にこだわるのであれば。建物を子ども園というものに市の方で絶対そこはそれにしたいというこだわりがあるのであれば。でもそこにわざわざくっつける必要性というものは、今の段階ではないと思いますので、あえてここで反対ということをおっしゃっていただいているんです。

○座長

いや、認定子ども園オンリーでという考え方で皆さんの意見を聞いているわけではございません。

皆さんが日頃地域で、また自分の仲間達と、いろんな子どもの育て方や子どもの生活の問題についていろいろと話をしているでしょうから、こういう市民会議の席で、認定子ども園という1つのものが出てきた時に、ああその問題についてはうちの方ではこん

なことを考えてますと、こんなことを希望しているんだと、というような事柄が皆さんの耳にも入っているんじゃないかなと思いますので、皆さんのご意見はどうですかと、いうことです。

だから、何々をどうしようということ強制しているわけでは決してございませんのでご自由に発言をしてください。

○委員

先程の話に戻ってしまうんですけども、自分も認定子ども園に対しては、賛成ではありませんけれども、先程子どもが少なくなって集団生活をさせたいから入れているという話があるんですけども、自分の子どもも集団生活をさせたいから幼稚園とか保育所に入れていて、人数が少なくなってきたら集団生活ができなくなってしまいますよという話があったんですけど、自分の子どもも今総野保育所にお世話になっているんですけど、人数が少なく全部で30人くらいしかいないんですけど、自分の子どもは、少なくて発揮できているところもある、と思うんです。多いところに入れていないので分からないですけど、多くなった時に、自分の子どもがどういう発揮をできるのかなというの、幼稚園側の方も気になるところもあるんだと思うんです。

大人数のところに行ったりするのも、やはり子どももそうですし親の方も不安なところがあると思うので、その辺の意見を言わせてもらったんですけど。

○委員

答えになるか分かりませんが、この4月に郁文保育所から何人か中央保育所の方に移って来たんですね。最初お母さん達も不安だったようなんですけども、お子さん達が今生き生きとしているんです。お母さん達もそれを見届けたせいか、すごく明るいんですね。すごく楽しいと言ってくれるんです。だからこれは間違いではなかったのだろうと思います。確かに少人数だから細かい指導も受けられたりもしますけれど、一概にどっちと言っただけではいけないのかも知れないけれども、今現在郁文の子どもさん達が来ての様子はそういう感じです。

○座長

やはりある程度の人数がいて子ども達は自由に活動することができるし、またそういう集団生活を経験させて、その集団生活を自分自身で喜んで参加するというような事柄の中で、自分の態度だとか協働とか自主とか、そういうような自立の精神が芽生えてくるんじゃないかなと思います。

だから、ある程度の集団生活をさせるということは、子どもの成長のためには大変大事なことでないかなと思います。

○委員

集団になって、子どもの数が増えて子ども達は多分喜ぶだろうと私は思います。親としては、今のところ上野だと先生が10人くらいいてくれているんですけども、合体した時に先生の数も一緒に増えてくれるのか。今のところ、上野だけで10人の先生がいて、もう1人賄いの先生がいて見てくれているんですけども、上野と鶴原が合体した時に、子どもは増えて先生が増えないという手が回るのかなという思いがあります。

親としては、子ども達が増えた時にその分先生は目が広がるわけですから、合体して、子どものメリットはあるのでしょうけれども、先生の目が今までと同じように行き届くのかなという感じはあります。

○座長

職員定数の問題ですね。

○委員

やはり子どもですから、あっち行ってこっち行ってというのが常ですから、子どもが増えて先生が増えるというふうになれば、私の意見としては、親として安心するのかなと思います。

○委員

鵜原で上野に上がるといった時に、鵜原保育所全体で18名だったものですから、18人の園児を3人の先生で見ている。お昼になったら、給食のお手伝いの先生が来てくれて4人で見ている。ということで、上野に上がるとなると、やはり大人数になることによって、先生の目が届かなくなるということも、上野に行くというのをためらった理由なんです。人数が増えることによって先生の目も園児にいかなくなるのではないかと、というのが不安だったものですから。転所を受け入れるといった時に1つ言わせてもらったのが、人数が増えるから先生も1人ではなく、せめてもう1人、付けてくださいというふうに言って、市役所の方も考えてくれますみたいな返事をいただいたので。増やしてくれるのではないですかね。

○座長

職員定数の問題ですよ。運営の面から考えていけば、職員定数がこうだから、例えば5歳児なら5歳児は30人に1人ですよという時に、じゃあうちの方は何人になってしまうかと、となってくると、全体の運営が手薄になってくるかなというような心配があるとすれば、人的な構成をどうしようかということは、当然行政側とも話し合いをする必要があるでしょうし、また、職員を改めて採用することだって可能なわけですよ。必ずしも認定子ども園なら認定子ども園の定数は、これは別ですよということではないと思うんです。

今幼稚園の中だって、お手伝いさんみたいな人いるでしょ。

○委員

はい、臨時の先生に。

○座長

そういういろいろな方法で、経営をサポートしてもらえるような人材を確保することも1つの仕事になってくるわけですから。

保護者にすれば、子どもの数が多くて職員が少ないと心配するところが多くなるのではなかろうかと思いますがけれども。でも、以外と人の集団というのは上手に作用してくれるんですよ。人数が少ないから非常にいい人間関係が構築できたということではないんです。ある程度の人数がいて、それで人間関係の構築の仕方が、それぞれが、自分自身が学ぶわけですから、うまくいく、そういうような状態もあるわけです。

職員定数が一番問題になりましたけれども、職員定数の問題については、経営者そのものがまた改めて考えていくことができる問題ではなからうかなど。そこまで市民会議の皆さんに責任を持って、なんてことになると一人ひとり容易ではないですよ。

○委員

ご心配でしたら、今中央保育所では、4歳が20人に1人の保育士でやっています。5歳も23人に1人でやっているんですけれども、全然心配いらないです。子ども達が逆にたくましくなったりしますし、感受性の強い子にはそれなりの対応をしています。いろいろな工夫をし、職員が話し合いながらやっていますので、子どもの人数が多いわりに職員がいないからといって不安があるかという、そうでもないと思うんです。多ければ多いなりに、ではどうしたらいいかという、頭を働かせたりという部分もあるので、大丈夫だと思います。

○座長

そうですね。1つの事象なら事象に対して正しい理解をするようになってくるわけです。そういうような心の芽生えを養ってやるということも1つの大きな教育要因ですからね。

さて、幼稚園の問題について、ちょっと離れてしまいましたけれども、幼稚園の問題については皆さんどんなご意見をその他持っていますか。

○委員

幼稚園の方にお伺いしたいんですけれど。老朽化に関して、味わい深い木造のいい雰囲気のある場所だということと、3月11日のような大きな地震が同じ震度で来た時に倒壊する恐れがあるかも知れないというふうな何となく思っていることに対して、もし自分達が今の建物の状態で同じ地震に遭った時に、という不安とかはないんですかね。

この間も耐震させてくださいというお話はしていらっしやいましたけれど、もし市側がそういうことはしません、そんな予算はありません、しばらく待ってくださいと言っている間に大きい地震が来てしまったというのは結構不安ではないですか。

興津も同じくらいの年数で、もっと前かも知れませんが、おんぼろで雨漏りはするしたいへんなところで、津波だけではなくて地震で倒壊するかもしれないという不安の中で保護者は過ごしていたので。人数が減ることももちろんそうなんだけれど、現状のままで建物を使うことに関して不安ではないのかなと思ったんですね。そこら辺はお話出ていますか。それでもいいから残してほしい、という感覚なのか、そこら辺がどうなのかなど。

○委員

保護者として、やはり安全が基本なので、小さい子を預けるわけですから。現状、構築物に関しては素人ですが、自分達が先生の意見も踏まえて見た限りでは、多少の雨漏り程度はあるんですけれど、特に異常は見られないという感じです。

あくまで素人の目で見ているものですから、それで市の方に一度ご視察に来てほしいということでお願いしたんですけれど。市の方の判断によっては、やはり保護者も安全第一ですから、変わってくるとは思います。上の中学校の方に登っていく避難経路もす

ぐに新しく市の方で造っていただいているので、一応現時点では安心しています。

○委員

予算が勝浦市にいっぱいあれば、こういう問題は起きなかった。幼稚園がどうのとか子ども園がどうのという話ではなくて、小学校の統合の問題も保育所の統合の問題も、予算があれば多分何の問題がなかったはずだけれど、現実として予算がないが上にどこにお金を重点的に置かなくてはいけないのかという問題で多分、余波が幼稚園にも来て興津保育所にも来ているみたいな感じだと思うんです。

あがいてもあがいても、でも元はこれしかないからといった時に、興津としてはあきらめた部分がすごくあったんです。いろんな方面で、上野の統合の前に、こういう方法があるんじゃないですかといくつか提示したけれど、結局それも予算の問題やいろいろな問題でと言って寸止めされたので。どこまであがけるものか、あがいた経験者としては、予算があればこんな話にはならないのにな、かわいそうだなと思いつつという現実があるので。

市としてどういうふうを考えているのかが結局は大事というか、あがくけれど、あがいて疲れて終わっちゃったというところも興津にはあるので。あがいたから頑張ったからよし、と思える時が来るのか、そのままなのか。予算がない上にこういうふうになります、という方向が見えているか見えていないかによるのかな、とちょっと思ったので。まとまらないですけど。

○座長

基本的には、確かに底流にお金というものがありますよ。興津の方でいろいろと問題があったことも興津の人達からよく聞かされておりますし、よく分かります。

お金があれば、いい場所はいくらでもあるんだから、そこへドーンと造ればそれで用が済むじゃないかということになってしまいうんですけど。

○委員

一応、子ども園という形の中で、大方の人達は、幼稚園側の方は反対かも分かりませんが、大半の人はご理解いただいているみたいなんです。勝浦市の財政も大変厳しい中で、あちらを残そうこちらを残そうというのではなくて、ある程度1つにまとめていきたいという考えもあると思うんです。そういう中で、先生の配置などは別として、ある程度の方針を決めていった方がいいのではないですか。

○座長

今話が出ておりましたけれども、認定子ども園なら認定子ども園、十分な設計措置を講じてもらって、例えばその中に幼稚園も保育所も共用できるような、そういう建物であればそれに越したことはないし、幼稚園はここへ持ってきますよということではなくて、そういう場合にも適用ができるような、施設というか保育所を造ろうということ、それが皆さんがこの前の会議から話をしていた、認定子ども園の考え方の1つですから。そういうことは一応皆さんが了解していると。ここに行政側の人達も今日それぞれ責任者がおりますけれども、25年度の設計段階においては、認定子ども園として十分な運営ができるような、そういう施設をぜひとも造っていただきたいということをこの市民会

議で要望いたしますと、いうことですね。

幼稚園の問題については、今皆さん方から意見がいくつか出ました。幼稚園の方々からは、やはり昔懐かしい幼稚園を何とか残しておきたいと、そういう形で意見も出ましたし、また、幼稚園では子ども達はこんな生活をしているんですよと、保護者の人達はこんなような活動をしているんですよと、具体的な形で幼稚園の実情について皆さんにご理解をいただきたいと、というようなことでお話がありました。

今回の会議、認定子ども園については、趣旨は賛成すると。設計段階に今年度入っていくわけですが、ぜひともその辺は十分な設計をお願いしたいというような意見を持っていますよということ。それと、今最後に出てきた幼稚園の問題については、今後とも話を詰めていく必要があるのかなということですね。

そういうことで、宿題みたいな形になってしまいましたけれども、幼稚園のことについては、そういう形で残したいと思います。

以上で会議終了